

## 屋上緑化における苔(スナゴケ)の二酸化炭素CO<sub>2</sub>の固定能力

CO<sub>2</sub>の固定とは国際的にも樹木のように数十年単位で固定しつづけるものを「固定」としようと決められており、樹木が茂る様な本格的な屋上緑化でなければCO<sub>2</sub>の固定は効果無いとする正しい考え方であり、一般の屋上緑化植物(草花、芝、セダム類、等)は剪定や冬期における立ち枯れ等により、焼却する事でCO<sub>2</sub>を固定出来なくなるが、苔は水分が無くても仮死状態で生命を数十年単位で維持するため、変色したり、枯れた様に見えてもCO<sub>2</sub>は固定したままであり、万一変色した様な場合も入れ替えし持ち帰り、焼却せず再生して再利用できるので、CO<sub>2</sub>の固定は可能である

大阪府立大学の村瀬教授の研究によると

コケの年間平均CO<sub>2</sub>固定量は

**117g/m<sup>2</sup>/年/10kg**である

(但し、苔の成長期間を3か月/年とする)

TUV標準杉の年間CO<sub>2</sub>固定量は

TUV ; ヨーロッパ標準規格

樹齢50年、直径26cm、樹高26m、950kgの杉の専有する5m<sup>2</sup>の固定量

**8g/m<sup>2</sup>/年/10kg**である

**苔は杉の14.6倍の固定能力がある**